

お わ り に

理事 狛江研究所長 福島 充男



われわれ人類はこれまで体験したことのない大きな困難「地球環境問題」に直面している。

無限の地球資源を前提とする20世紀までの人間活動の結果として、このまま人口と地球資源の消費が増え、環境への負荷が増加すれば、地球の環境容量を超えてしまう。その結果として地球環境の劣化が進み、生活レベルのみならず、生命をも脅かしかねない事態を迎えるという。「宇宙船地球号」に象徴される地球の資源と環境という二つの有限性のなかで、どのような形の持続可能な社会を成熟した社会として築きあげるかが今後の人類に課せられた重大な課題である。

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」によれば、「地球温暖化」は、既にその姿を現し始めている。

待った無しの「地球温暖化問題」は、「気候変動枠組み条約」の「京都議定書」を巡る一連の動きでわかるように、「科学」の世界から「政治」の舞台に移っている。しかし、温暖化対策を確実に実行に移すには、長期的エネルギー戦略と科学的事実に基づいた「地球温暖化」の正しい理解が不可欠である。そして、「地球温暖化問題」は「自然科学」や「環境工学」の専売領域ではなく、長期的な「エネルギー・環境政策」に基づく「地球科学」「エネルギー利用」に関わる総合的な研究領域として捉えていくことが肝要である。

当研究所はこれまで、国内外の研究ネットワークの下でさまざまな協力や指導を仰ぎながら、温暖化の原因とメカニズムの解明および温室効果ガスの抑制についての「科学的ツール」の開発や確立に努めてきた。その過程で得られた科学的知見は、電気事業や一般社会の温暖化問題についての理解促進に幾分でも貢献してきたものと考えております。

当研究所は、今後とも、最新の科学技術を用いて信頼できる気候変化の「予測」を行い、これを基に、温暖化抑制のための「対策」と不可避な温暖化への「適応」に関する研究を推進し、随時科学的情報として発信していく所存ですので、関係各位のより一層のご指導とご鞭撻を賜ることを念ずる次第です。